

校(園)長名 福井 みどり

学 校 目 標	○じょうぶな体をつくる子 ○すすんで学ぶ子	○おたがいを大切にできる子 ○人のためにはたらける子
目指す学校像	子供が主役の学校	
目指す子供像	<p><b>○じょうぶな体をつくる子</b> →運動が好きな子 健康のため自己管理ができる子 自他の命を大切に学習</p> <p><b>○すすんで学ぶ子</b> →分かる、楽しい授業、外部や地域の講師と連携した体験的な授業 本物から学ぶ</p> <p><b>○おたがいを大切にできる子</b> →いじめ・暴力を許さない 規範意識の醸成と実践 思いやり勇気のある子</p> <p><b>○人のためにはたらける子</b> →他の幸せを自分の幸せにできる子</p>	
目指す教師像	<p><b>教職員の基本姿勢 「子供が主役の学校」</b></p> <p>○保護者と共に、児童の成長を喜び合う。明るさ温かさを根底にしなが、指導すべき点は明確に伝わるよう、身に付くよう温かく、寄り添って指導する。 (体罰・暴言はあってはならない。)</p> <p>○子供の思いを受け止め、良いことと悪いこととを明確に教える。勇気づける指導を進める。</p> <p>○特別支援教育への理解を進め、一人一人の良さを伸ばし、考える・分かる・できる喜びのある授業・教育活動を追求し、日々研究・研修に努める。</p> <p>○保護者・地域と温かい関係を築き、共によりよい学習環境・居場所を創造する。</p> <p>○いじめを絶対に許さず、偏見や差別をなくす人権尊重教育の徹底に努める。 (呼名・言葉遣い) ○教師自身が児童の手本となる。率先垂範 凡事徹底 明るく温かく笑顔で。</p>	

項目	取組の視点	取組目標	成果指標
各教科等指導等	確かな学力を育てるための分かりやすい授業の実施等	<p>◎教員の授業力向上 主体的、対話的、深い学びに向けた授業改善 &lt;本物から学ぶ教育の充実&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを図る素地を育成し、自らの考えを発信できるよう言語能力の向上を目指す。</li> <li>・年間2回以上の授業観察</li> <li>・校内での授業交流各自1回以上</li> <li>・区の研究会への参加100%</li> </ul> <p>専門性を磨き、授業研究の発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師道場・区授業力向上研修など、積極的に参加させる。</li> </ul> <p>○特別な教科道德の充実</p> <p>○学習指導要領を踏まえた、カリキュラムマネジメントの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを明確にした授業の充実。児童の授業への満足度80%以上。</li> <li>・読み解く力、表現する力の向上。学びの基本姿勢が育つ。</li> <li>・全学級で交流活動、スピーチ活動を行い、自ら表現する力が育つ</li> <li>・全教員が年間1回の授業公開を行うことにより、授業改善が図られる。</li> <li>・指導計画、評価規準の修正</li> <li>・年間指導計画の修正</li> </ul>
	特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な	<p>○校内特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の特別支援委員会を中心に個々の児童に合わせた支援指導計画を作成し、合理的な配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育への理解が進む。児童の安心感、集中度を上げる環境づく</li> </ul>

様式 2

	<p>支援等</p>	<p>慮のもと体制を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週的生活指導夕会等での全職員への情報共有を行う。校内研修を実施し、配慮児童への理解と、指導力の向上、ユニバーサルデザインの理解と環境づくりを目指す。</li> </ul> <p>○特別支援教室拠点校として、在籍校との連携を進め、安定した運営を進める。(支援の充実、環境づくり、システムづくり)</p>	<p>りが進む。学級が落ち着き、学級への帰属感が高まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点校として体制が整う。在籍校との連携が進み、支援体制への満足度があがる。</li> </ul>
	<p>社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育等</p>	<p>○自己肯定感を高め、他の喜びを自分の喜びとできる子の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した、縦割り班活動他異年齢での活動 委員会・係活動・当番活動・登校班等の取組</li> <li>・幼保小中一貫教育を目指した、連携事業実施。(教科での連携を進める。)</li> <li>・豊かなかかわりの中で体験的な学習(本物から学ぶ学習)を進め、将来の夢をもち、職業への期待を育る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自己肯定感が高まる。アイチェックでのポイントが上がる。</li> <li>・組織的・計画的に小1プロブレムや中1ギャップへの対応が進む。</li> <li>・出前授業や仕事調べなどを通して、自分の将来について意欲的に考え、夢や見通しをもつことができる。</li> </ul>
<p>生活指導等</p>	<p>問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組等</p>	<p>○いじめ防止方針案にのっとり、いじめの早期発見早期解決に取り組む、いじめ0をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間3回以上のいじめ防止の授業実施。(10月にいじめ防止公開授業実施。)</li> <li>・いじめ不登校対応委員会を中心に、教職員全員での関わり、毎週的生活指導夕会での全職員への情報共有をもとに、即時対応する。(理由の判明しない欠席1日で連絡対応)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見早期解決が進む。不登校の防止が進み、欠席配慮児童が改善される。</li> <li>・児童の学級・学校への満足度が上がる。</li> <li>・児童の意欲の向上・自己肯定感の向上を目指す。</li> </ul>
	<p>基本的な生活・社会習慣、人間関係作りのための心の教育等</p>	<p>○お互いに思いやり生活の基本を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期はチャイムを減らす</li> <li>・委員会・係活動・当番活動・登校班の取組</li> <li>・生活指導部を中心とした「あいさつ運動」の実施 毎朝のあいさつ当番、年間分担任での登校班でのあいさつ当番を進める。</li> <li>・身に付けるべき生活のルールを全教職員で確認し、段階的に指導する。(さんてらスタンダード 授業の始めと終わり、発表の仕方、さんくん付け、呼名等)</li> <li>・児童のよりよい関係づくりを目指し、相互に認め合い励まし合う活動を計画的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期はチャイムを減らしても行動できる。</li> <li>・活動の振り返りを行い、各自が成長を実感する。(振り返りカード)</li> <li>・自分からあいさつができる児童が8割以上になる。</li> <li>・教職員の指導が徹底し、児童の規範意識が育つ。</li> <li>・アイチェックで学級への帰属感や、自己有用感が高まる。</li> </ul>
	<p>安全を確保するための取組等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティ教室 不審者対応、薬物乱用防止などの学習</li> <li>・インターネット・ソーシャルメディア等のかかわり方の学習を進め、さんてらSNSルールを作成する。</li> <li>・避難訓練(様々な想定場面での訓練)</li> <li>・安全指導日の指導の充実 保護者と連携した登下校訓練。</li> <li>・食物アレルギー対応研修と教員のシミュレーション訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・防災・防犯教育を進め、児童に自分で自分を守る意識や実践力が育つ。</li> <li>・教員の緊急時の対応力が向上する。</li> </ul>

	<p>子供や保護者からの意見や要望への対応等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任が、保護者・児童とつながり、相談しやすい雰囲気作りをしていく。 担任一人ではなく、チームで動く。 相談された内容を情報共有し、その後の対応策を即時に確認し実施する。(いじめ防止対策委員会他)</li> <li>・家庭訪問や個人面談・保護者会など目的に応じて、意見要望を聞き取るような場面設定を行う。</li> <li>・SC への相談など奨励する。SC の 4~6 年生の全員面接を実施する。</li> <li>・行事・授業アンケートは随時。学校の保護者アンケートを 1 2 月に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が開かれているとのアンケート回答が 9 割以上となる。</li> <li>・学校の対応に理解が進む。情報が入りやすくなる。教師の折衝力や対応力が向上する。</li> <li>・SC 活用の機会が増え、児童への支援が強化される。</li> <li>・児童保護者の意見要望を取り入れた、教育活動が進む。</li> </ul>
<p>学校の管理運営</p>	<p>経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職・主幹主任教諭による、校務改善と教育活動の活性化を進める。(経営支援部) (スクラップ&amp;ビルド ファイリングの整備)</li> <li>・企画会議を充実させ、計画的で組織的な提案をさせる。実施後は即時見直しを次年度に向けて行う。</li> <li>・週案をもとに、計画的な教育活動を進める。</li> <li>・ジョブローテーションによる分掌組織の活性化各自の仕事の効率化を進め守備範囲を広げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的・組織的な対応が進み、校務の見直しから、教育活動の取組達成度が上がる。</li> <li>・チームでの動きが常となり、教育活動が豊かになり改善が進む。学校への満足度が上がる。</li> </ul>
	<p>子供の実態に合わせた教育目標設定及び評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態を明確にし、学校の教育目標の達成に向け児童像を決める。学級の目標や、教員の自己申告に反映させる。</li> <li>・指導と評価の一体化を図り、評価規準を明確にし、児童や保護者に分かりやすい提示を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCA サイクルでの学校運営が進み、課題や改善点が明確になる。</li> <li>・到達目標が明確になり、取組への意欲や関心が高まります。</li> </ul>
	<p>教育環境・設備等の整備状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT の活用研修を行う。</li> <li>・学校の環境整備・美化を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT による授業改善が進み、活用度が上がる。</li> <li>・環境整備・美化が進む。</li> </ul>
<p>家庭・地域連携</p>	<p>教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の学校便り・学年便り等での発信。学級便りの推進</li> <li>・HP の充実、毎週更新。</li> <li>・情報メールの活用随時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校のアンケートで情報発信のポイントが上がる。HP の閲覧数が上がる。</li> </ul>
	<p>保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事・授業への参加を進める。</li> <li>・学校支援ボランティアを立ち上げ、児童への支援の体制を強化する。(読み聞かせ・図書整備・授業支援)</li> <li>・ゲストに迎え、地域を教材とするなど保護者・地域とのつながりを深める授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校への協力者が増える。学校アンケートで、学校へ肯定的意見が増える。</li> </ul>